

107.

616.935:616.15-097.34

赤痢患者ニ於ケル Widal 氏反應

附誌

岡山醫科大學北山内科教室(主任北山教授)

市立岡山病院(主任須賀院長)

醫學士 坂中只一

[昭和13年12月21日受稿]

第1章 緒言並ニ文獻

赤痢患者ニ於ケル Widal 氏反應ノ診斷的價値ニ就テハ今日猶議論ノアル所ニシテ、殊ニ歐洲ニ於テハ甲論乙駁歸一スル所ナキモ、本邦ニ於テハ診斷的價値ヲ認メントヘルモノ多キモノノ如シ。診斷的價値ヲ否定スルモノニ、Doerr u. Kraegel アリ。Seligmann u. Cossmann, Dünner ハ志賀菌ニノミ診斷的價値ヲ認メタリ。Loewenthal, Hansherr u. Otto ハ妊婦ノ血清ハ赤痢菌ニ對シ強キ凝集反應ヲ示ストナシ Dresel u. Marchand ハ「腸チフス」患者其ノ他ノ血清モ赤痢菌ヲ高度ニ凝集スト報シ又 Soldin, Seligmann u. Cossmann ハ「腸チフス」豫防接種後一過性ニ赤痢菌ヲ強ク凝集スルモノアリト言ヘリ。診斷的價値ヲ認ムルモノニ Lenz, Widowitz, Schmidt, Jacobitz アリ。又 E. Fraenkel, Menton, W. Gaethgens u. H. Schulten 等ハ赤痢ニ於テハ凝集素出現ノ時期ガ比較的遅延スレドモ反覆検査ヲ實施スルトキハ診斷的價値大ナリトシ C. Hegler モ亦之ニ賛意ヲ表シタルモ、唯小兒ニ於テハ弱陽性ナル事ヲ遺憾ナリト報ゼリ。而シテ歐洲ノ諸家ノ報告ハ、凝集用菌株ヲ志賀菌、Flexner 菌、Y 菌、Ruhr-E 菌等トシ、概ネ凝集價ハ志賀菌ニ對シテハ 50—100 倍ヲ以テ、他ノ赤痢菌ニ對シテハ 100—200 倍ヲ以テ陽性ト認メタルモノノ如シ。

本邦ニ於テハ駒込病院ニテ、堀・渡邊・長谷川・河野・川口ノ諸氏又三橋・大八木・前橋ノ諸氏ハ二

木博士分類法ニヨリ決定セル菌株ヲ用ヒ、赤痢患者ニ於ケル Widal 氏反應ノ診斷的價値ヲ認メタリ。金野氏ハ赤痢患者ノ Widal 氏反應ハ 37°C. 4 時間ニテ檢シ、更ニ室温 24 時間、放置後再檢シ、以テ成績ヲ判定スルヲ可トナシ、志賀菌 100 倍、駒込 A 菌 200 倍、駒込 B 菌、川瀬菌、中村菌各 400 倍、大原菌 100 倍ヲ以テ特異性ト見做スヲ妥當トシ診斷的價値ヲ認メタリ。最近笹井氏モ亦追試スル所アリ、37°C. 2 時間ニテ志賀菌、大原菌ニ對シテ 100 倍以上、駒込 A 菌、川瀬菌ニ對シテ 200 倍以上、駒込 B 菌、中村菌ニ對シテ 400 倍以上ノ凝集價ヲ示ス時ハ、Widal 氏反應陽性トシテ赤痢ナル診定ヲ下シ得トナセリ。余モ亦市立岡山病院ニ入院セシ赤痢及ビ疫痢患者 105 例中 63 例ニ就キ、82 回ニ互リ Widal 氏反應ヲ検査シ、診斷的價値アリトノ結論ニ達シタルヲ以テ茲ニ報告セントス。

第2章 實驗方法

第1節 血清

小兒ニ於テハ發痘膏ニヨリテ得タル發痘液ヲ使用シタルモノ多ク、成人、老人ニ於テハ概ネ食前採血シ、之ヲ放置シ、自然ニ析出セシ血清ヲ使用シ、型ノ如ク生理的食鹽水ヲ以テ 50 倍、100 倍、200 倍……1600 倍、3200 倍ト遞減的ニ稀釋セリ。發痘液乃至血清採取ノ時期ハ、諸家ノ報ズル所ニ從ヒ凝集素發生ノ最モ著明ナル第 2 病週末ヨリ第 3 病週末ヲ選ブヲ原則トセリ。然レ共 16 例ニ於

テハ第1回検査ヲ10病日以内ニ行ヒタリ、

金野氏ニ從ヒ、37°C、4時間ニテ檢シ、更ニ1

第2節 凝集用菌株

晝夜室温ニ放置シタル後、Agglutinoskopヲ用ヒテ成績ヲ判定セリ。

駒込病院笹井氏ノ好意ニヨリテ分與サレタル志賀・駒込A・駒込B・川瀬・中村・大原ノ各型赤痢菌及ビ患者ヨリ分離シタル患者菌ヲ、普通寒天=37°C、1晝夜培養シ、之ヲ生理的食鹽水1ccニ對シ1白金耳ノ比ニ浮游セシメタル生菌液1滴宛ヲ使用セリ。

第3章 健康凝集價

對照トシテ健康人、猩紅熱、「チフテリ」及ビ「腸チフス」患者合計20例ノ血清ニ就キ、赤痢菌ノWidal氏反應ヲ検査シ、健康凝集價ヲ判定セリ。其ノ成績ヲ示セバ第1表ノ如シ。

第3節 凝集反應判定ノ時間

第1表 赤痢菌ニ對スル健康凝集價

番 號	姓名	診 斷	志賀菌		駒込A菌		駒込B菌		川瀬菌		中村菌		大原菌		チフス菌		バラチフスA		バラチフスB	
			4 St.	24 St.	4 St.	24 St.	4 St.	24 St.												
1	杉山	腸チフス	50	50	100	200	100	100	50	200	50	100	50	50	400	3200	100	400	100	400
2	榎並	"	(-)	100	100	100	100	200	(-)	50	(-)	50	(-)	50	200	3200	(-)	100	50	50
3	石原	"	50	100	100	200	(-)	100	(-)	50	(-)	50	(-)	50	200	3200	50	50	50	200
4	佐藤	"	50	100	100	200	50	200	50	200	50	200	(-)	50	200	1600	50	100	50	100
5	増野	"	50	100	50	100	50	100	(-)	50	50	100	(-)	(-)	100	400	50	50	50	100
6	高木	"	(-)	200	100	200	(-)	100	50	100	50	100	(-)	50	200	3200	(-)	50	50	200
7	山田	"	50	100	100	200	50	200	50	50	50	100	(-)	50	800	3200	50	100	100	400
8	赤木	猩紅熱	50	50	100	200	50	400	100	200	(-)	100	(-)	100						
9	濱谷	"	(-)	100	100	200	50	100	50	50	50	100	(-)	50						
10	中村	チフテリ	(-)	50	100	200	100	200	100	200	100	200	50	50						
11	中川	"	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	50	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
12	下原	"	(-)	50	(-)	50	(-)	50	(-)	(-)	50	100	(-)	(-)						
13	齋藤	"	(-)	100	50	200	50	200	(-)	50	50	100	(-)	100						
14	大川原	健 康	50	50	100	200	50	200	50	100	(-)	100	(-)	50						
15	守安	"	50	50	50	200	50	50	50	100	50	100	50	50						
16	原田	"	(-)	50	50	200	100	400	100	200	50	200	(-)	50						
17	石田	"	50	50	100	200	100	200	100	200	50	100	(-)	50						
18	土井	"	50	50	100	100	50	100	100	100	50	100	50	50						
19	山崎	"	50	100	200	400	200	400	100	200	200	400	50	100						
20	和田	"	(-)	50	100	200	50	100	50	100	(-)	50	(-)	50						

(-)ハ50倍陰性ヲ示ス

即チ志賀菌ニ對シテハ100倍、駒込A、駒込B、川瀬・中村ノ各菌ニ對シテハ200倍、大原菌ニ對シテハ50倍ヲ以テ健康凝集價ト見做シ得ベシ。從ツテ志賀菌ニ對シテ200倍以上、駒込A菌、駒込B菌、川瀬菌、中村菌ニ對シテ400倍以上、大原菌ニ對シテ100倍以上ノ凝集價ヲ示ストキハ赤痢ナル診斷ヲ下シ得。

第4章 赤痢患者ニ於ケルWidal氏反應ノ成績

63例ニ就テWidal氏反應ヲ検査セシガ、内55例ハ赤痢菌陽性ナリシモノニシテ、此分離菌55株ニ就テハ、先ニ報告セシ如ク、細菌學的檢索ヲ遂ゲ、其ノ菌型ヲ確實ニ決定シタルヲ以テ、Widal氏反應ニヨリテ、患者ノ感染セル赤痢菌型ノ推定

可能ナリヤ否ヤヲ判斷スル上ニ重要ナル根據トナシ得タリ。因ニ菌陽性例 55 例中、駒込 A 菌症 1、駒込 B 菌症 43、川瀬菌症 7、中村菌症 4 ナリ。既述ノ如ク、検査期日ハ凝集素ノ出現最モ著明ナリトセラルル第 2 病週末ヨリ第 3 病週ノ終頃ヲ選ビタルモ、63 例中 16 例(内、菌陰性例 1 例)ニ於テハ、

10 病日以内ニ、第 1 回検査ヲナシ、以テ免疫體發現ノ推移ヲ觀察セリ。菌陰性例ニ於テハ 8 例ニ就キテ検査セリ。

以上 Widal 氏反應ノ成績ヲ一括表示セバ第 2 表ノ如シ。

第 2 表 Widal 氏反應ノ成績

番 號	患者 名	年齢	患者血清 血清採取病日 凝集用菌株 菌型	凝 集 反 應							
				志賀菌	駒 A 菌	駒 B 菌	川瀬菌	中村菌	大原菌	自家菌	
1	江○ミ○	60	駒込 A	9	100	100	200	200	200	50(-)	400
				20	200	400	800	400	800	50(-)	800
				27	200	400	400	200	800	50(-)	800
2	日○珠○	2	駒込 B	9	50	50	1600	100	400	50(-)	1600
				3	9	50	100	400	100	200	50(-)
3	村○操	3	"	16	100	200	1600	100	200	50(-)	1600
				8	200	50(-)	200	50(-)	200	50(-)	400
4	松○加○	5	"	23	200	200	1600	100	400	50	1600
				9	50(-)	50(-)	50	200	50(-)	400	
5	祇園○子	6	"	16	100	50	1600	200	800	50(-)	3200
				7	50(-)	100	400	200	400	50(-)	800
6	大○敏○	19	"	16	50	200	1600	100	800	50(-)	800
				8	100	50	800	400	400	50(-)	800
7	田○敏○	20	"	16	100	50(-)	800	200	400	50(-)	800
				8	200	50(-)	1600	100	800	50	3200
8	小○八○子	24	"	18	200	200	1600	200	800	50	3200
				10	100	200	800	200	400	50(-)	400
9	北○塚○	26	"	23	100	200	800	400	200	50(-)	800
				6	50	50(-)	200	400	100	50	400
10	兩○ヨ○	32	"	16	50	100	1600	400	400	50(-)	1600
				8	100	400	100	400	400	50(-)	400
11	深○毅	3	川瀬菌	15	100	400	400	1600	400	50(-)	1600
				10	50(-)	50(-)	100	200	200	50(-)	800
12	内○敏○	9	"	19	50(-)	50(-)	400	1600	800	50(-)	1600
				9	200	200	100	200	400	50(-)	800
13	片○浪○	17	"	16	200	800	1600	1600	800	50(-)	1600
				7	50(-)	50(-)	200	50	200	50(-)	200
14	大○止○	51	中村菌	14	50	50(-)	400	400	400	50(-)	800
				18	50	50	400	400	400	50(-)	800
				3	50(-)	100	100	100	400(±)	50(-)	800
15	黒○良○	12	駒込 B	15	50	400	1600	800	400	50(-)	3200
				10	50	50(-)	50	200	400	50(-)	800
16	早○信○	13	菌(-)	23	50	50(-)	1600	400	800	50(-)	800
				21	50	50	800	100	400	50	800
17	笠○利○	3	駒込 B	21	50	50	800	100	400	50	800
18	西○博○	3	"	16	50(-)	50	1600	800	800	50(-)	1600
19	岡○巳	4	"	23	50(-)	50	3200	400	400	50(-)	3200
20	佐○芳○	4	"	17	50	800	1600	200	800	50(-)	3200
21	福○啓○	5	"	12	50(-)	50(-)	1600	400	200	50(-)	1600
22	樋○一○	5	"	16	50	200	1600	200	800	50	1600

番 號	患者血清			凝 集 反 應							
	患者名	年齡	菌 型	血清探取病日	凝集用菌株	志賀菌	駒A菌	駒B菌	川瀬菌	中村菌	大原菌
23	岩○千○子	5	駒込B	12	50(-)	100	3200	50	200	50(-)	3200
24	赤○美○	5	"	13	400	800	3200	100	400	50(±)	3200
25	則○晴○	5	"	13	50	100	3200	50	400	50(-)	1600
26	西○繁○	7	"	19	50(-)	50	1600	800	800	50(-)	1600
27	長○年○	8	"	19	50(-)	400	800	400	400	50(-)	1600
28	中○寛○	17	"	19	100	100	1600	800	800	50(-)	3200
29	島○利○	22	"	13	50	200	800	1600	400	50	800
30	平○助○	22	"	16	100	400	1600	200	400	50(-)	800
31	杉○繁○	22	"	16	50(-)	100	100	50	100	50(-)	200
				37	50(-)	800	800	100	200	50(-)	800
32	芳○勝○	23	"	19	400	400	1600	400	200	100	800
33	藤○正○	23	"	16	50(-)	800	3200	400	800	50	800
34	松○道○	24	"	12	50(-)	100	200	100	100	50(-)	1600
				29	200	100	3200	400	1600	50(-)	3200
35	内○仙○	29	"	16	50	50	800	100	200	50(-)	800
36	市○一○	29	"	11	100	100	800	200	400	50(-)	800
				15	200	100	800	800	800	50(-)	800
37	西○義○	34	"	14	200	400	1600	400	800	50(-)	1600
38	妹尾○吾	38	"	18	50(-)	200	400	200	400	50(-)	800
39	藤○友○	40	"	16	50	100	800	200	400	50	800
40	國○萬○	42	"	20	50	200	800	400	400	50(-)	1600
41	筒○藤○	47	"	19	50(-)	100	800	200	400	50(-)	800
42	白○管○	47	"	21	50	50	3200	1600	400	50(-)	2400
43	西○幸○	50	"	18	100	200	400	400	400	50(-)	800
				25	100	100	800	800	800	50(-)	800
44	藤○比○	51	"	26	50	100	400	100	100	50	400
45	岡○夕○	54	"	19	50	50	800	100	400	50	800
46	清○サ○	56	"	21	50(-)	100	1600	400	100	50(-)	1600
47	上○ハ○	57	"	16	50	200	1600	200	200	50	800
48	池○初○	72	"	21	100	200	1600	200	400	50(-)	800
49	兩○夕○	78	"	20	50	50	1600	200	200	100(±)	1600
50	内○雅○	3	川瀬菌	21	50	100	200	1600	200	50	1600
51	川○一○	3	"	12	50(-)	200	200	800	200	50(-)	1600
52	石○美○	4	"	27	50(±)	200	100	400	200	50(-)	400
53	鎌○か○	64	"	21	50	200	400	800	400	50	800
54	高○省○	38	中村菌	19	50	200	200	400	400	50(-)	3200
55	柿○安○	57	"	16	50(-)	50(-)	100	200	400	50(±)	800
56	森○都○	61	"	27	50	50	400	100	1600	50(-)	3200
57	小○傘○	27	菌(-)	26	50(-)	50(-)	200	50	50	50(-)	/
58	高○品○	30	"	17	50	200	400	100	100	50(-)	/
59	三○カ○	60	"	21	50(-)	50(-)	200	50	50	50(-)	/
60	石○夕○	62	"	21	50(-)	50(-)	50	50	50	50	/
61	筒○愛○	61	"	20	50	800	400	400	50	50	/
62	石○利○	71	"	33	50(-)	50(-)	50(-)	50(-)	50(-)	50(-)	/
63	兒○季○	72	"	32	100	50(-)	1600	400	400	50(-)	/

即チ菌陽性 55 例中主凝集價ノ高キモノ 42 例、主凝集價ト副凝集價ト同等ナルモノ 11 例、副凝集價ノ高キモノ 2 例ナリ。而シテ 10 病日以内ニ第 1 回検査ヲ行ヒシ 16 例(ウチ菌陰性 1 例)中 Widal 氏反應陰性ナルモノ 12 例ニシテ 4 例ハ陽性ナリキ。但後日ノ検査ニ於テ 12 例總テ陽性化セリ。

菌陰性 8 例中 Widal 氏反應陽性ナルモノ 4 例ニシテ他ノ 4 例ハ陰性ヲ示セリ。

第 5 章 總括竝ニ考按

由來赤痢患者ニ於ケル Widal 氏反應ノ診斷的價値ヲ認メシ者ト雖モ、「腸チフス」「バラチフス」ニ於ケル該反應ノ價値ニ比スレバ遜色アリトハ、洋ノ東西ヲ問ハズ、諸家ノ齊シク認ムル所ナリ。余ノ成績ニ於テモ類屬反應ノ高度ナルモノ多數アル事ハ一見看取シ得ラルルモ、今菌陰性例ヲ除外

シ、菌陽性例ノミニ就テ考察スルニ、Widal 氏反應陽性判定ノ基準ヲ志賀菌 200 倍、駒込 A 菌、駒込 B 菌、川瀨菌、中村菌各 400 倍、大原菌 100 倍ニ置クトキハ、全例悉ク赤痢ト診斷シ得ベシ。然ラバ Widal 氏反應ノ成績ヨリ患者感染ノ赤痢菌型ヲ推定シ得ルヤ否ヤト云フニ、主凝集價ノ高キモノ 42 例(76%)ニシテ大多數ヲ占メ、主凝集價ト副凝集價ト同等ナルモノ 11 例(20%)ニシテ、副凝集價ノ高キモノ 2 例アリシノミナリ。由是觀之、Widal 氏反應ノ成績ノミヨリシテ、感染菌型ヲ推定シ得ル可能性ハ相當大ナリト言ヒ得ベシ。而シテ主凝集價ノ副凝集價ヨリ高カリシ 42 例ニ就テ、更ニ精細ニ見ルニ試験管 1 本ノ差ノモノ 21 例ニシテ第 1 位ヲ占メ、2 本ノ差ノモノ 15 例、3 本ノ差ノモノ 5 例、4 本ノ差ノモノ 1 例ナリ。

今、視角ヲ換ヘテ、Widal 氏反應ノ成績ト年齢トノ關係ヲ見ルニ、第 3 表ノ如ク、10 歳以下ノ小

第 3 表 Widal 氏反應ノ成績ト年齢トノ關係

年 齡	1—5 歳	6—10 歳	11—15 歳	16—20 歳	21—30 歳	31—50 歳	51 歳以上	合 計	
試験管									
4 本ノ差	1							1	} 42 (76%)
3 本ノ差	4						1	5	
2 本ノ差	6				1	1	4	15	
1 本ノ差	5	4	1	4	3	2	2	21	
差ナキモノ				1	1	7	2	11	} 13 (24%)
副凝集價高キモノ					1		1	2	

差トハ主凝集反應ノ副凝集反應ヨリモ高度ナルコトヲ意味ス

兒 20 例ニ於テハ例外ナク主凝集價高ク、内、試験管 1 本ノ差ノモノ 9 例、2 本以上ノ差ノモノ 11 例ナリ。成人(11 歳以上ヲ成人ト見做ス)患者 35 例ニ於テハ主凝集價ノ高キモノ 22 例(60%)ニシテ、内、試験管 1 本ノ差ノモノ 12 例、2 本以上ノ差ノモノ 10 例、主副凝集價ノ間ニ差ナキモノハ 11 例(31%)ナリ。金野氏及比佐井氏ハ副凝集價ノ主凝集價ヨリ高度ナルモノヲ 1 例モ見ズトセルモ、余ハ副凝集價ノ高キモノ 2 例ニ遭遇セリ。但 2 例共試験管 1 本ノ差ヲ示タルモノナリ。

斯ク、赤痢患者ノ年齢ノ見地ヨリ Widal 氏反

應ヲ窺フトキハ、主凝集價ト副凝集價ト同等ナル場合又ハ稀乍ラ後者ノ高キ場合ハ、主トシテ成人ニ見ラルル所ニシテ、小兒ニ於テハ例外ナク主凝集價高シトノ極メテ興味アル結論ニ到達セリ。換言セバ赤痢ニ於ケル Widal 氏反應ヲ錯亂セシムルモノハ成人患者ナリトナスモ過言ニアラザルベク、殊ニ小兒例 20 例中 5 例ヲ除キテハ、總ベテ高度ノ主凝集價ヲ示セル事實ヨリ見レバ、C. Hegler ガ小兒赤痢ニ於テハ弱陽性ナルモノ多ク、判斷ヲ迷ハストノ所論ニハ首肯シ難シ。

併、10 病日以内ニ第 1 回検査ヲ行ヒタル 16 例

ノ成績中、陽性ヲ呈シタルモノ僅ニ4例ニシテ、12例ハ陰性ナルカ或ハ弱陽性ヲ示セリ。此12例中大多數ハ更ニ後日ノ検査ニ於テ顯著ナル凝集價ノ上昇ヲ見タルモ、唯駒込A菌症及ピ中村菌症ニ於テハ然ラザリキ。尙ホ全例中ニ於テ第3病週ニ入りテモ陽性トナラズ、後日ノ検査ニ於テ、漸ク陽性化セシ例アリ。要之、赤痢患者ニ於テハ諸家ノ報ズル如ク10病日以内ニハWidal氏反應陰性ニ終ル事多シ。而モ又稀ニ陽性化ノ甚シク遲延スル場合モアルナリ。

譲ツテ患者菌ノ凝集價ヲ見ルニ55例中19例ハ該當菌ノ夫レヨリモ高く、30例ハ該當菌ノ夫レト同等ニシテ第1位ヲ占メ、該當菌ノ凝集價高キモノ5例ヲ得タリ。笹井氏ハ最高凝集價ハ、常ニ患者菌ガ示ストナシ、患者菌ニ對スル凝集價ヲ、他菌ニ對スル凝集價ガ越ヘタルモノ1例モナシト報告セルモ、余ノ成績ニテハ、1例ニ於テ他型赤痢菌ノ凝集價ガ、患者菌及ピ該當菌ノ夫レヲ凌駕スルノ結果ヲ示セリ。

最後ニ、赤痢菌檢出陰性ニ終リタル患者ニ於テハ、8例中4例ハ菌陽性例ニ於ケルWidal氏反應ヨリ得タル經驗ヨリシテ、赤痢ナル診斷ヲ下スニ躊躇セザルモ、残りノ4例ハ臨牀上粘膿血便、其ノ他赤痢様症狀ヲ呈シ、赤痢様疾患ヲ疑ハシメタルモ、Widal氏反應ハ第3—第4病週ニ於テモ陰性ヲ示シ、該反應ニ據リテハ赤痢ノ診斷ヲ下シ難シ。是レ赤痢様症狀ヲ呈スルモノ總テガ、必ズシモ所謂赤痢菌ヲ病原トセザル事ニ對シ、有力ナル根據ヲ與フルモノト信ズ。

以上余ノ得タルWidal氏反應ノ成績ヲ要約スルニ菌陽性例55例中、主凝集價ノ高カリシモノ42例(76%)ニ達シ、主副兩凝集價、同等ナリシモノ11例(20%)ニシテ副凝集價ノ高カリシモノ僅ニ2例(4%)ニ過ギザリキ。從ツテWidal氏反應ノ診斷ノ價値ハ殷トシテ動カズ、殊ニ小兒ニ於テハ殆ド例外ナク、最高凝集價ニヨリテ感染菌型ノ推定可能ナリ。加之、菌陰性例8例中、4例ニ

於テWidal氏反應陰性ナリシ事實ニ徴シテ、赤痢及ピ赤痢様患者ニ於ケルWidal氏反應ノ診斷ノ價値ニ就テハ最早、疑ノ餘地ナシトスルモ過言ニアラザルベシ。唯併シ金野氏モ言ヘル如ク、赤痢患者ニ於テハ、凝集素出現ノ時期、比較的遲延スルヲ以テ早期診斷ニハ不適當ナルモ、此事ハヤガテ、菌陰性ニ終リタル症例ニ於テ、赤痢ナリシヤ否ヤヲ確ムル見地ヨリシテ更ニWidal氏反應ノ價値ニ光彩ヲ與フルモノト言ヒ得ベシ。

第6章 結 論

- 1) 赤痢及ピ赤痢様患者63例ニ就キ、Widal氏反應ヲ82回検査シタル結果、其ノ診斷ノ價値ヲ認ム。
- 2) 10歳以下ノ小兒患者20例ニ於テハ例外ナク主凝集價高ク、Widal氏反應ニ據リテ感染菌型ノ推定可能ナリ。
- 3) 成人患者35例中、主凝集價高カリシモノ22例、主副兩凝集價同等ノモノ11例ニシテ副凝集價ノ高カリシモノ2例ニ遭遇セリ。
- 4) 赤痢菌陰性患者8例中、4例ニ於テWidal氏反應陰性ニ終レリ。
- 5) 菌陽性例55例中、患者菌ノ凝集價最高ナリシモノ19例、患者菌ト該當菌ノ凝集價同等ナリシモノ30例、他型赤痢菌ノ凝集價最高ナリシモノ1例ヲ得タリ。
- 6) 10病日以内ニ於テハ16例中、凝集素ノ出現ヲ見タルモノ僅ニ4例ノミナリ。

摺筆ニ臨ミ御指導竝ニ御校閲ノ勞ヲ賜リタル恩師北山教授竝ニ須賀院長ニ深謝シ、又貴重ナル菌株ヲ分與サレシ京市駒込病院笹井醫學士ニ敬意ヲ表ス。

文 獻

- 1) 堺, 渡邊, 長谷川, 河野, 川口, 駒込病院, 第17回報告. 2) 三橋, 駒込病院, 第18回報告. 3) 大八木, 前橋, 駒込病院, 第21回報告. 4) 今川, 日本傳染病學會雜誌, 第4卷, 第12號. 5) 金野, 日本傳染病學會雜誌, 第10卷, 第12號. 6) 笹井, 日本傳染病學會雜誌, 第12卷, 第6號. 7) C. Hegler, Deuts. med. Wsch., Nr. 14, 1935. 8) Dresel u. Marchand, Zeits. f. Infektionskrh., Bd. 76, 1913. 9) Dünner, Berl. kl. Wsch., Nr. 46, 1916. 10) E. Fraenkel, Deuts. med. Wsch., Nr. 40, 1905. 11) Gaeltgens u. H. Schulten, Münch. med. Wsch., Nr. 11, 1935. 12) Hansherr u. Otto, Ztbl. f. Bak., Abt. 1, Orig. Bd. 87, 1921. 13) Jochmann-Hegler, Lehrb. d. Infektionskrht., Aufl. 2. 14) Jacobitz, Berl. kl. Wsch., Nr. 26, 1916. 15) Loewenthal, Zeits. f. Hyg. u. Infektionskht., Bd. 72, 1912. 16) Menton, Brit. med. Journ., 1928. 17) Max Soldin, Deuts. med. Wsch., Nr. 26, 1915. 18) Seligmann u. Cossmann, Mün. med. Wsch., Nr. 51, 1915. 19) Schmidt, Zeits. f. Hyg., Bd. 81, H. 1.

*Aus der Inneren Abteilung der Medizinischen Fakultät Okayama
(Vorstand: Prof. Dr. K. Kitayama).*

Über Widalsche Reaktion bei Dysenteriekranken.

Von

Dr. Tadaiti Sakanaka.

Eingegangen am 21. Dezember 1938.

Ich habe an 63 Fällen von Dysenteriekranken, unter denen in 55 Fällen Dysenteriebazillen nachgewiesen und deren Bakterientypus nach Futakischer Klassifikation bestimmt wurde, die Widalsche Reaktion beobachtet und deren diagnostischen Wert bestätigt gefunden. Das Blut entnahm ich am Ende der 2 ten bzw. 3 ten Krankheitswoche. Bei Kindern unter zehen Jahren zeigte die Hauptagglutination ausnahmslos einen höheren Titer, weshalb ich die Diagnose der infizierten Bacterientypen nur mit der Widalschen Reaktion stellen konnte. Bezüglich der 35 Fällen von Erwachsenen ist der Titer der Hauptagglutination höher in 22 Fällen, Titer der Hautagglutination und der Nebenagglutination gleichwertig in 11 Fällen, und nur in 2 Fällen ist der Titer der Nebenagglutination höher als der Hauptagglutination gestellt. (Autoreferat)